

商業科（原価計算）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和3年 ○月 ○日（○） ○限目
- 3 学 級 ○○HR ○○名
- 4 使用教科書 原価計算（実教出版）
- 5 単 元 名 第15章 標準原価計算（その2）

6 単元設定の理由

（1）教材観

標準原価計算の目的は、無駄や不能率を省いた標準原価と実際原価を比較することで、製造過程の無駄や非効率を改善することにある。有効な原価管理を行うためには、原価要素別に差異を計算し、分析する重要性を理解させるため、本単元を設定した。

（2）生徒観

原価計算の内容に興味を持ち、自発的に学習に取り組むなど意欲の高い生徒もいる。その姿が他の生徒に好影響を与えている。学習の理解度に差があるが、生徒同士でお互いに助け合いながら学習する様子も見うけられ、雰囲気は良い。

（3）指導観

分析を行ううえで、原価差異を求める計算技術の習得に重点をおいた指導にならないよう、原価差異の目的と意味を理解させ、考える力（数字から得られる情報を用いて判断する力）を育てる指導を行う。

7 単元の目標

原価差異を算出し、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
標準原価計算を利用した原価情報の活用について関心を持ち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとする。	なぜ、原価標準を設定するのか、差異分析により何がわかるのか、原価管理について理解しようとしている。	原価情報の活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、損益計算書の作成等を的確に行うことができる。	標準原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。

9 指導計画

- 第1次 実際原価の計算・・・・・・・・・・ 1 時間
- 第2次 原価差異の計算と分析・・・・・・・・ 2 時間（2／2） 本時
- 第3次 標準原価計算の記帳法（パーシャルプラン）・ 1 時間
- 第4次 記帳と分析の例示・・・・・・・・・・ 2 時間
- 第5次 損益計算書の作成・・・・・・・・・・ 1 時間

10 本時の目標

直接材料費差異を分析し、差異を改善するための具体案を考えることができる。

11 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 5分	・前時の復習と本時の内容を聞く。	・標準原価計算の目的と内容を復習する。		
展開 (40分)	・直接材料費差異を計算し、材料消費価格差異と材料消費数量差異を分析する。 ・差異の発生原因について知る。 ・タブレット端末を用いて不利差異を改善するための具体案を調べ、まとめる。 ・考えた具体案を発表する。	・有利差異, 不利差異について説明し, 内容を理解させ, 分析した差異の有利不利を判断させる。 ・材料消費価格差異と材料消費数量差異の発生原因を説明し, 理解させる。 ・「何が原因」で「不利差異が発生」したかに着目して考えることを説明し, 改善の具体案が導き出せるようサポートをする。 ・具体案を生徒自身の言葉で説明できるようサポートをする。	・差異を改善するための具体案を考え, 発表することができる。 (思考・判断・表現)	・発表
まとめ 5分	・本時の学習内容を確認する。	・原価管理における原価差異の分析を行う重要性を説明する。		